

Active

我孫子市立湖北小学校

研推だより

2025.10.6 No.9

発行者 菅家

今回のテーマ：第2回 校内授業研究会の振り返り

9月26日（金）に第2回目、5年生と6年生の授業研が終了しました。先生方、お忙しい中ありがとうございました。協議会で出た意見や津輕先生、大岡先生からご指導いただいたことを共有したいと思います。今回の授業研について、振り返っていきます。目を通していただけたら、嬉しいです。

<5年2組 岩佐学級> 『整数の性質を調べよう』

本時は、「猛獣狩り」を通して、約数について理解するという活動でした。

協議会での意見まとめ

- 導入の工夫、つかみ○
- 2年生から頼られる、助けてあげたい！！という児童に意欲をもたせる。
→活動の必然性がうまれていた。
- 本校の仮説にしっかり合っている。
- 猛獣狩りで「約数」を考える
→次時（公倍数）にどのようにつなげるか。



また、教科書の問題でもできるかどうか確認する必要がある。

大岡先生からのご指導

- ・児童の実態に合わせた学習○→算数って楽しい！！友達と一緒にやるって楽しい！！と思わせる。
- ・「知識・技能」は、教える・いっぱい取り組ませる・できるようになる！！という流れ→定着してから見取る
- ・やる気を引き出すしきけ大事！！しかし、教科書の問題も扱わなければならない。
- ・学習計画は、見通しをもつという点で大事。

しかし、算数は教科書通りに進めていく必要があるため、計画を立てることが難しい単元もある。

- ・ループブリックは、学習の調整のために必要。
- ・子どもたちのワークシートは○や○などで。
- はのせない。



<6年2組 菅家学級>

『ビブリオバトルをしよう－No. 1 ファンタジー決定戦』 「きつねの窓」

本時は、ビブリオバトルに向けて準備を進める活動（自由進度学習）でした。

協議会での意見まとめ

- 言語活動にビブリオバトルの設定→必然的に本を読まなければならない◎
- 計画の立て方→積み重ねが大事！
- 「先生と一緒に」「一人で」「友達と」
取り組み方を自分で選びやすい雰囲気◎



- 本を読み進めるスピードの差が大きいことが課題

- 子どもたちのグループの作り方に課題あり

津軽先生からのご指導

- ・取り組み方でゾーンを分けるのは有効
- ・子どもにゆだねる時間が長い。→特別支援の視点でも○
- ・ゆるやかな協働→子どもたちは一人でやるより誰かがいたほうが安心。必要なときに話し合う!!!
- ・**自分でアクションを起こす=主体性！**
- ・自由進度学習の時の教師の動きは、「学びを価値付けすること」「学びを肯定してあげること」
→決して、指示はしない!!!
- ・ICTも必要だが、リアルも大切に。
- ・ワークシートの枠も子どもに決定させる。→これも主体性につながる。
- ・自由進度学習を行う際は、単元によって向き不向きがある。どの単元でもできるものではないため、吟味が必要。



授業研は、「授業研のための授業、見せるための授業」ではありません。教師の授業改善のための授業であるべきだと考えます。津軽先生もお話されていましたが、「授業研では子どもの姿を見る。子どもの姿を語る。」そして、「教師のどんな声かけや手立てで子どもの様子が変わったか。」を見ていきたいなと思います。

津軽先生より、「教師が『やって』と言わなくても、自らやる姿が主体性だ。」というお話をいただきました。まさにその通りだなと思いました。以前からの湖北小の課題です。これは、学習においてだけではなく、学校生活においても言えることではないでしょうか。津軽先生は、「世の中の困難に自分で立ち向かえる子どもたちを私たちは育てていかないといけない。」と校長室でお話されました。研究テーマである国語や算数だけではなく、どの場面においても自分軸で考えられる、主体性のある子どもたちを育てていかなくてはいけないと痛感しました。湖北小の職員全員で「自ら考え、行動できる児童」を育てていけたらと思います!!!

岩佐先生・村岡先生 おつかれ様でした！！

私は先生方から忌憚ないご意見をいただき大変勉強になりました。ありがとうございました。